▼ワントラム錠　［内］

【重要度】★★　【一般製剤名】トラマドール塩酸塩　Tramadol Hydrochloride　【分類】持続性がん疼痛・慢性疼痛治療剤［弱オピオイド］
【単位】▼100mg/錠
【常用量】1回100mgから開始，100～300mg/日［最大400mg/日］
■高齢者では最大300mg/日
■トラマドール塩酸塩即放性製剤から切り替える場合は即放性製剤の1日投与量鎮痛効果及び副作用を考慮して初回投与量を設定
【用法】1日1回［できるだけ同じ時間帯に］
【透析患者への投与方法】高度な腎障害患者では高い血中濃度が持続し，作用及び副作用が増強するおそれがあるため禁忌（1）
【その他の報告】トラマドール製剤の初回選択には適さないかもしれないが，切り替え症例では使用可能と思われる（5）
【その他の報告】腎障害患者では未変化体および活性代謝物M-1のAUCが腎機能正常者の1.5～2倍に増加するが，症状に応じて用量を設定する（5）50mgを12hr毎［HD日はHD後］（17）
【PD】50mgを12hr毎（17）
【CRRT】避ける（17）
【保存期CKD患者への投与方法】高い血中濃度が持続するおそれがあるため腎障害患者には慎重投与（1）
【その他の報告】腎障害患者では未変化体および活性代謝物M-1のAUCが腎機能正常者の1.5～2倍に増加するが，症状に応じて用量を設定する（5）
Ccr 30mL/min未満：50%に減量（FDA）
GFR 10mL/min未満：50%に減量（17）
【特徴】トラマドールの徐放性製剤
【主な副作用・毒性】ショック，アナフィラキシー，呼吸抑制，依存性，悪心，嘔吐，便秘，血圧上昇，起立性低血圧，傾眠，浮動性めまい，異常行動，幻覚，肝障害，皮膚障害など
【安全性に関する情報】眠気，めまい，意識消失が起こることがあるので，投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないよう注意（1）中毒による典型的な症状は，縮瞳，嘔吐，心血管虚脱，昏睡に至る意識障害，痙攣，呼吸停止に至る呼吸抑制等（1）
【F】68%（1）
【tmax】
【代謝】CYP2D6及びCYP3A4により代謝（1）
【排泄】
【t1/2】
【蛋白結合率】19.5～21.5%（1）
【Vd】2.7L/kg（1）
【MW】299.84
【透析性】ほとんど除去されない（1）
【O/W係数】【TDMのポイント】TDMの対象にならない．治療上有効な血中濃度100ng/mL（1）
【相互作用】MAO阻害剤と併用禁忌（1）中枢神経抑制剤との併用注意（1）リネゾリド：セロトニン症候群（1）
【肝障害患者への投与方法】
【小児CKD患者における報告】
【妊婦・授乳婦への投薬】
【主な臨床報告】
【備考】徐放性製剤であるため，割ったり噛み砕いたりしない（1）
【更新日】20210517

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。
※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。